

第81回企画展

「^{くわ}鋤・^{すき}鋤・^{すき}犁」

～田畑を耕す農具～



令和元年7月9日(火)～9月28日(土)

岩手県立農業ふれあい公園 農業科学博物館

農作業で使われる農具は、かつては農民自らの長い経験と知恵、創意工夫で作られてきました。専門の職人に一部加工を^{ゆだ}委ねることはあっても、最終的には農民自らの判断のもとに作られました。

日本農業の歴史の中で最も多く使われてきた農具は「^{くわ}鋤」と「^{すき}鋤」でした。中でも「^{くわ}鋤」は田畑を耕す、土を砕く、土を塗るなどたくさんの用途があり、こうした日本農業の特徴から『^{くわ}鋤一本主義』という言葉が存在するほどでした。

また、「^{くわ}鋤」や「^{すき}鋤」には地域ごとに様々な形状のものが存在し、岩手県では独自に発展した「^{なんぶがたくわ}南部型鋤」や「^{なんぶがたふみすき}南部型踏鋤」が使われていました。

「^{くわ}鋤」や「^{すき}鋤」が農作業の主役を担ってきた時代は、昭和 30 年代の高度経済成長期にまで及びました。現代では農業の機械化が進みましたが、今でも「^{くわ}鋤」は多くの農家で使われています。

今回の企画展では、田畑の耕作に使われた「^{くわ}鋤」と「^{すき}鋤」、牛や馬に引かせて耕す「^{すき}犁」について紹介します。



抱持立犁



じょれん鋤



双用二段耕犁



備中鋤 (二股鋤)



鉄鋤



ふぐし 南部型踏鋤

岩手県立農業ふれあい公園

農業科学博物館

北上市飯豊 3-110 TEL:0197-68-3975

開館時間／9:00～16:30(入館は16:00まで)

休館日／月曜日(月曜日が祝日の場合は直後の平日)

入館料／一般300円 学生140円 高校生以下は無料

団体割引等(20名以上)があります

駐車場／大型バス12台 普通車240台 身障者専用5台